

京都大学が満州第731部隊軍医将校の学位授与の検証について 再要請書と署名簿の受付を拒絶 (6月16日)

満洲第731部隊軍医将校の学位授与の検証を京大に求める会

3月3日付郵送による京都大学総長への

会見要請の無視

満洲第731部隊軍医将校の学位授与の検証を京大に求める会(以下、会と称す)は、2020年3月3日付で山極寿一京都大学総長(1952年生。任期は2020年9月30日迄、以下、総長と称す)に、満洲第731部隊軍医将校の学位授与の検証にかかわる大学当局の対応についての見解を求めるため、会見要請書を郵送した。要請書が総長室及び自宅に届いたことは確認された。しかし、回答期限の3月末を過ぎても返事はなかった。

会は、2020年5月25日の政府の緊急事態解除宣言(全国)後の6月13日に役員会を開催し、山極寿一京都大学総長に対する「本会との会見を再度要請します」と題する再要請書と2018年7月26日以降に集まった署名1453筆(2020年6月13日現在、北海道108、関東267、北陸493、関西525、中四国12、九州14)を京都大学広報課(以下、広報課と称す)を通じて届けることを決議した。

なぜ京都大学広報課を通じて再要請したか

2018年7月以降、会との交渉の京都大学側の責任者の任にある野田亮研究倫理・安全推進担当副学長(医学系研究科大学院教授)(以下、副学長と称す)に面会をメールで要請した(1月18日)ところ、副学長から「本件に関する大学の担当は現在、広報課に代わっております。直接広報課にご連絡いただきますようお願いいたします」「本件については京都大学研究倫理・安全推進担当ではなくなった」という返信があった(同21日)からである。

6月19日の京都大学広報課からの「拒絶」回答

6月15日に再要請書と署名簿を広報課に届ける段取りを要請するメールを広報課宛に送り、翌日に確認のため電話したところ、広報課職員からは「総

長秘書室とも調整し返事します」との口頭返事を得た。同19日に広報課から届いた返信は以下のとおり、1500名の署名受取についての言及がなかった。「署名も受け取らない」ということかについて念のため確認したところ「回答内容については、ご見解のとおりです。」という返信があった。

6月15日に当課にご連絡いただいた件について
下記のとおり回答いたします。

「本学としてはお答えすることは何もありませんので、要請はお受けできません。」

京都大学総務部広報課

会は、このような回答を広く社会に広報する一環として6月25日に「京都大学総長への面会再要請に対する回答」と題する緊急記者会見を行った。メディア関係からは、NHK、京都新聞、京都大学新聞、京都民報、共同通信、毎日新聞、読売新聞の参加があった。会からは共同代表の鰐坂真、関西大学名誉教授、広原盛明元京都府立大学学長事務局から西山勝夫滋賀医科大学名誉教授、福島知子日本科学者会議京都支部731を考える会世話人が参加した。

2年間にわたる京都大学当局との交渉経過

会の検証を求める要請に対し、京都大学は、副学長を交渉担当者とし、2018年7月26日に会と公式面談を開催した。副学長は、席上において、会の要請は研究不正に関する学内規程の適用範囲外であるとしながら、「皆さんの要請書を深く受け止める」「過去を変えることはできないが、未来に生かすようにしたい」「未来に生かすということは、現在の問題として捉え、過去の検証をすることも含まれている」「皆さんの言われたことを執行部で検討する」「9月にその結果を会に報告する」と述べ、9月18日には会に対し「予備調査を開始する」と通知した。

会は、副学長の真摯な対応を心から歓迎し、予備調査に必要な関係資料の提出をはじめ全面的な協力を表明した。しかし、年が明けた 2019 年 2 月 8 日、副学長から「本調査は実施しない」との通知があり、その理由は「当該学位論文の使用された動物がサルであるということを明確に否定できるほどの科学的合理的理由があるとは言えず、実験報告の捏造・改ざんであるとまで断定できない。」というものであった。

会は、直ちに「異議申し立て」(2 月 19 日)を書面で行ったが、副学長からは「異議申し立て」に応じない旨の連絡があった(3 月 15 日)。またその後、会の関係資料の情報開示請求(6 月 8 日)に対して大学当局からの然るべき対応がなかった。やむなく情報公開制度に基づき開示請求したところ、会の要請が「医学研究科事案(731 部隊)」という件名で扱われていたことが判明したものの、資料はほとんどが「黒塗り」で判別のつかないものであった*。

以上のように、大学当局の予備調査開始後の一連の対応は、理不尽で、過去に目を閉ざし、真理を探究する大学の社会的責任を放棄し、京都大学の自由の学風にふさわしいものとは言えず、また「軍事研究は行わない」とする大学としての基本方針(2018 年 3 月 28 日)に照らしても到底納得できるものではなかった。

京都大学総長としての任務及び社会的責任の放棄

日本学術会議会長や国立大学協会会長の要職を歴任し、かつ京都大学の代表者であり大学当局の最高責任者である総長は、会の会見要請に真摯に向き合う責務がある。しかし総長はこの間一度たりとも会との面談の機会を設けず、社会に向けても発信しなかった。今回、さらに、再要請書、署名簿の受付すら拒絶した。このような対応は京都大学が 2018 年 7 月に示した画期的な方針に自ら背くものである。会は、記者会見(6 月 25 日)では、このような総長としての任務を放棄した不誠実極まりない態度に強く抗議すると表明した。

振り返れば、総長はこの間、学内の重要問題に対しても一貫して背を向けてきた。タテカン(構内立看板撤去)、吉田寮生追い出し、琉球王朝人骨返還拒絶などの問題でも、大学自治の原則を投げ棄て、大学として果たすべき役割を果たさず、当事者との交渉も拒否してきた。

その一方、総長とは切っても切れない関係にある京都大学霊長類研究所で研究費不正問題が持ち上がり、松沢哲郎(1950 年生)研究所長(当時)らが 5 億円を超える研究費の不正支出に手を染めていたことが明らかになった。同僚の松沢氏を定年後も京都大学高等研究院特別教授に任命したのは総長であり、総長はその任命責任を免れない。それにもかかわらず総長は京都大霊長類研究所の不正経理についての記者会見(6 月 26 日京都大学)には現れなかった。

会は問い続ける

国際シンポジウム(主催: 第 27 回日本医学会総会 出展「戦争と医学」展実行委員会、2007 年 4 月、大阪)における米国ハーバード大学の Wikler 教授(生命倫理学)の講演から引用する。

過去に何が起こったのかを誠実に、率直に、正確に報告することによって、そして過去と対峙することによって、我々は常々持ちたいと望んできた価値観を肯定するのです。

最も重要なのは、そうすることによって、過去との共犯関係から若い世代を解放し、過去の不正に対する責任を負う必要をなくすることです。隠蔽や共犯の伝統を保持するよう若い世代に求めるのではなく、代わりに彼らをこの責任から完全に解放することです。

京都大学は、予備調査では最近の論文を引用して、後付けで問題の論文における「さる」はサルではないとは明確には言えないと結論した。そうするのならば、京都大学は、「イヌノミ」による「人類」へのペスト感染をサルを用いた実験で発見できたとする論文の結論、京都大学医学部教授会審査員による「論文要旨」に関する疑問に答えなければならない。しかし、未だ一言も答を示していない。「拒絶」回答は、京都大学が疑問を解消できる後付け文献も見つけれないことの表れではないか。このような疑問は科学的に解明されなければならず、それはまた霊長類学及び人類学の泰斗である総長の果たすべき学問的使命である。

*なお審査請求については、京都大学の諮問を丸呑みした裁決書(2020 年 3 月 23 日付)が総務省情報公開・個人情報保護審査会から届いたので、これに対する抗議声明(別添)を 6 月 13 日付で発表した。

(文責 満洲第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を京大に求める会事務局長 西山勝夫)

[ニュースレター編集担当より]

この問題についてはこれまでも連絡会ニュースレターで報じてきました。ニュースレターは連絡会ホームページからすべてダウンロードできます。

・22 号(18.5.16) 研究者が戦争に協力する時～731 部隊の生体実験をめぐって(4 月 14 日講演会報告)

・25 号(18.9.5) 山極京大総長宛「旧満洲第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を求める要請」の結果について

・30 号(19.3.7) 「ハルピンと私、731 部隊関係者と戦後の大学自治」(広原盛明 講演予稿)

・31 号(19.4.15) 京都大学は「旧満洲第 731 部隊軍医将校の学位授与の本調査は実施しない」に対する「異議申立」を認めないと回答
あわせて広原盛明の講演要旨も掲載

そこで本号では上記との重複を避けながら、皆様にこの間の取り組みの全容を知っていただくためにいくつかの資料を掲載します。

[資料1]2018年7月26日に京都大学に提出された最初の要請書とその注。

それに対する京大の当初の対応は25号をご覧ください。またその後の予備調査の結果の概要と、本調査を実施しないことへの抗議については31号を参照してください。

[資料2]2020年3月に京大総長に送付した要請書「総長離任に際し、当会との会見を要請します」

[資料3]予備調査についての開示請求の経過

[資料4]その裁決書に対する抗議声明

なおこれらも含め詳細な資料については「満洲第731部隊軍医将校の学位授与の検証を京大に求める会」のホームページをご覧ください。

<https://war-kyoto-university.jimdofree.com/>

《資料1》

2018年7月26日

京都大学総長 山極 壽一 様

京都大学医学研究科長 上本 伸二 様

要請書 満洲第731部隊軍医将校の学位授与の検証を求めます

貴大学が、京都帝国大学時代に医学博士の学位を授与した旧満洲第731部隊軍医将校（以下、同人）の学位論文（以下、当該学位論文）の主論文¹⁾に人道上看過できないねつ造と医の倫理に反する不正な箇所が含まれている疑いがあります。

貴大学大学文書館所蔵の学位授与記録²⁾によれば、同人は1945年（昭和20年）5月31日付けの学位申請書と主論文「イヌノミのペスト媒介能力ニ就テ」などを貴大学に提出し、医学博士の学位申請を行いました。貴大学は、当該の学位申請を受け付け、医学部教授会の議を経て、総長より文部大臣に学位認可を申請し、文部大臣の認可（同年9月26日）を受けて同日に学位授与を決定し、学位記（学位記番号：医2556）を同人の代理人に届けました。

当該学位論文は、イヌノミのペスト媒介能力についての実験的研究ですが、論文中の「VII 特殊実験」の項³⁾で用いられた実験動物のサルは実はヒトではなかったかとの疑いがあります⁴⁾。もしそれが事実であるとすれば、実験報告のねつ造であるに留まらず、実験が極めて非倫理的・非人道的であることは多言を要しません。

厳正な学位審査を行なうべき学術機関として、貴大学におかれましては、上記実験動物がサルであったかヒトであったかを検証する義務があります。もしヒトであったことが判明した場合、すみやかに学位授与を取消されるよう要請します。

満洲第731部隊軍医将校の学位授与の検証を

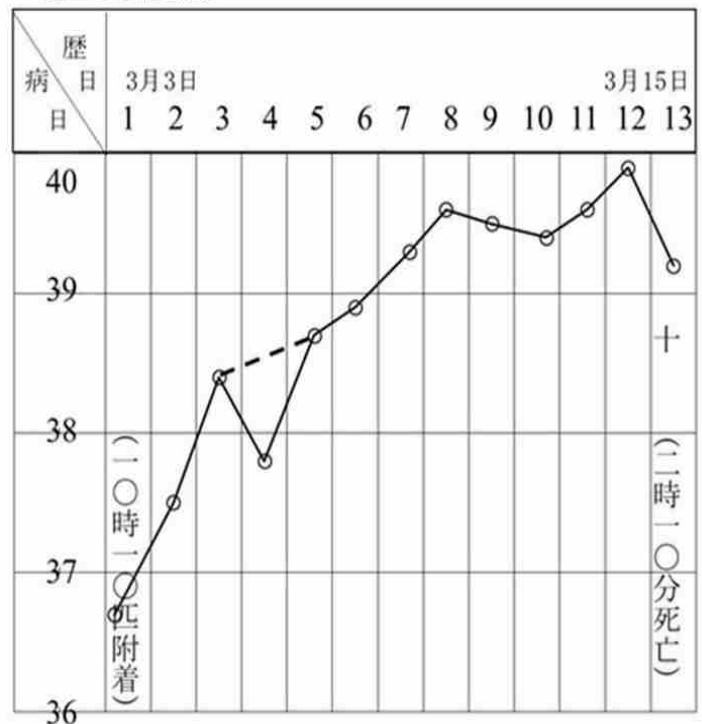
注

1) 本要請書で取り上げた旧満洲第731部隊軍医将校・平澤正欣（以下、同人）の学位論文の存在は「陸軍軍医学校防疫研究報告」プロジェクトチーム（2004）での常石敬一の報告により明らかにされ、「陸軍軍医学校防疫研究報告 解説・総目次」（『15年戦争極秘資料集補巻23 陸軍軍医学校防疫研究報告 解説・総目次』不二出版、2005）において公表・解説された。同主論文の一部分が、常石著『戦場と疫学』（pp205-207, 海鳴社, 2005）において翻刻引用され、論じられた。なお同人が学位申請時に提出した主論文の複写物は <http://war-medicine-ethics.com/KU/Thesis.pdf> で、翻刻版は <http://war-medicine-ethics.com/KU/ThesisRepublicated.pdf> で閲覧できる。

2) 京都大学文書館：学位授与関係書類（上）39（写真複写）は <http://war-medicine-ethics.com/KU/Vtm.pdf> で閲覧できる。同書類には、医学部教授会の議は1945年（昭和20年）6月6日、医学部長の総長への答申は同15日、総長の文部大臣への認可申請は同26日、文部大臣の認可は同年9月26日、医学博士学位記（学位記番号：医2556）の同人の代理人受領は1946年5月4日との記録がある。

3) 同人が学位申請時に提出した主論文中の「VII 特

死亡する体温表



VII 特殊実験

イヌノミノ保菌後3日目ノモノヲ用ヒ下表ノ如ク1匹、5匹、10匹ノ3群二分チさるノ大腿部ニ附着セシムルニ成績ヲ得タリ

殊實驗」の項(翻刻版抜粋)

第 8 表 イヌノミニヨルさる攻撃

区分	供試数	感染発症数	感染率
1 匹附着	3	0	(0%)
5 匹附着	3	1	(33%)
10 匹附着	3	2	(66%)

發症さるハ附着後 6-8 日ニシテ頭痛、高熱、食思不振ヲ訴ヘ同時ニ局部淋巴腺ノ腫脹、壓痛、舌苔眼結膜充血ヲ其ノ他典型的ナル腺ペスト症状ヲ示セリ、感染發症率ヲ見ルニ 1 匹附着ニテハ感染セルモノ皆無、5 匹ニテハ 1/3 10 匹ニテハ 2/3 ナリ。

發症さる中 1 (10 匹附着ノモノ) ハ 39 度以上ヲ 5 日間持續シ發病 6 日目(附着後 13 日目)ニ死亡セリ。剖檢所見ニ於テ脾、肝鼠蹊淋巴腺ハ顯著ナルペスト病變ヲ呈シ又各臓器ノ塗抹培養ニヨリ脾肝肺淋巴腺ヨリペスト菌ヲ多數檢出セリ

竝ニイヌノミニヨルさるノ感染發症死亡ヲ確認セリ

4) 常石は、前掲の『戦場と疫学』(p207)において「『発症サルは附着後 6—8 日にして頭痛、高熱、食思不振を訴え』とある。サルが高熱を出しているかどうかの確認は可能だ。また食思不振であるかどうか判断できる。しかし、サルが頭痛に苦しんでいることはどうしたら、把握できるのだろう」と述べている。また、サルの体温は種によって異なることや日内の変動幅が大きいにもかかわらず、実験で用いたサルの分類学上の記載がなく、「さる中 1 (10 匹附着ノモノ) ハ 39 度以上ヲ 5 日間持續シ」とあるのみで、各日の体温測定時刻や当該「サル」の平常の日内変動幅と観察された体温との関連についての記載もない。龍味哲夫は東京大学博士(農学)論文「実験用サル類における生理・行動指標の日内変動ならびに保定馴化に関する研究」(報告番号：乙第 12200 号、授与年月日：1995 年 3 月 15 日)ににおいて「いずれの種においても点燈とともに体温は上昇し、ツパイで 39℃、リスザルで 37℃、アカゲザルで 38℃に達した後、昼間は小さな変動を繰り返しながら高体温状態を維持した。消燈後はいずれの種においてもすみやかに下降し、夜間は 35~36℃の低体温状態となり、3~4℃の日内変動幅がみられた」と述べている。

《資料 2》

2020 年 3 月 3 日

京都大学総長 山極壽一様

満州第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を京大に求める会
共同代表 鰐坂真 池内了 広原盛明
松宮孝明 山本啓一
事務局長 西山勝夫

総長離任に際し、当会との会見を要請します

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。貴下が 2014 年 10 月の総長就任以来、6 年間

にわたり京都大学における自由の学風を継承し、人類の幸福と平和に貢献する教育研究活動を発展させるため、日々努力を重ねてこられたことに深い敬意を表します。

私たちは、日本学術会議の「軍事的安全保障研究に関する声明」(2017 年 3 月)及び京都大学の「軍事研究は行わない」とする軍事研究に関する基本方針(2018 年 3 月)に賛同する立場から、京都大学関係者が 731 部隊のような非人道的軍事研究に再び携わることがないよう、「満州第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を京大に求める会」(2018 年 1 月)を結成し、2 年余にわたって検証を求める活動を続けてきました。

当会の検証を求める要請に対し、野田亮京都大学研究倫理・安全推進担当副学長(医学系研究科大学院教授)は 2018 年 7 月 26 日、公式面談の席上において「皆さんの要請書を深く受け止める」「過去を変えることはできないが、未来に生かすようにしたい」「未来に生かすということは、現在の問題として捉え、過去の検証をすることも含まれている」「皆さんの言われたことを執行部で検討する」「9 月にその結果を会に報告する」と述べられ、9 月 18 日には野田副学長から「予備調査を開始する」との通知がありました。私たちは、野田副学長の真摯な対応を心から歓迎し、予備調査に必要な関係資料の提出をはじめ全面的な協力を表明しました。野田副学長の言葉にあるように、過去に真正面から向かい、そこから得た教訓を現在および未来に活かすという、これまで成し得なかった学術の府としての歴史的責務が果たされることを期待したからです。

ところが、年が明けた 2019 年 2 月 8 日、野田副学長から「本調査は実施しない」との通知があり、その理由は「当該学位論文の使用された動物がサルであるということを明確に否定できるほどの科学的合理的理由があるとは言えず、実験報告の捏造・改ざんであるとまで断定できない。」というものでした。

当会は、直ちに「学位論文における研究活動上の不正行為に関する調査結果について(2019 年 2 月 8 日通知)に対する異議申し立て」(2 月 19 日)を書面で行い、学術的根拠を示して誠意ある回答を待ちましたが、野田副学長からは「異議申し立て」に応じない旨の連絡がありました(3 月 15 日)。またその後、当会の関係資料の情報開示請求(6 月 8 日)に対して、大学当局から誠意ある対応がなく、不開示もしくは開示されても資料のほとんどが「黒塗り」で判別のつかないものでした。

以上の経過からもわかるように、この間の大学当局の対応は京都大学の自由の学風にふさわしいものとは言えず、また「軍事研究は行わない」とする基本方針に照らしても到底納得できるものではありません。日本学術会議会長や国立大学協会会長の要職

を歴任され、かつ大学当局の最高責任者であり、京都大学を代表する学者でもある貴下が、その見識を問われる学術の問題であるにもかかわらず、このような不誠実・不公正な状況のまま事態を放置されていることを、いったいどう考えておられるのか、率直なご意見をうかがうことができれば幸いです。

貴下はまた日本を代表する霊長類学（ゴリラ）研究者として知られ、総長在任中においても専門家として様々な発言をなされてきました。そのような専門家としての立場から、以下の事柄に対する見解をお聞きさせていただきたく存じます。

当会は 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を求める活動を続けているのですが、その背景には、当該軍医将校の学位論文が「さる」ではなく、実は「ヒト」の実験に基づくものではないかという根本的な疑問があるからです。むろん、このような疑問は学術的に解明されなければならない、それはまた霊長類学研究者の果たすべき学問的使命であるはずとの観点から、当会は熊本で開催された第 35 回日本霊長類学会大会に参加し、好廣真一氏（龍谷大学名誉教授、元ヤクザル調査隊隊長）の「どんな“さる”だったのだろうか？—イヌノミのペスト媒介能力の実験—」の研究発表に同席しました。この研究発表は霊長類学会報告の抄録に掲載され、多くの参加者が関心を示して討論が行われました。貴下は霊長類学研究者の第一人者として、このような研究報告への批判も含め、当該軍医将校の学位論文についてどのような見解をお持ちなのか、この点についてご意見をうかがえれば幸いです。

以上、総長離任間際の御多忙な時期にこのようなお願いを申し上げることは誠に恐縮ですが、当会の意のあるところをお汲み取りいただき、会見の場を設けていただくことを要請する次第です。

なお、勝手ではありますが、ご返事は 2020 年 3 月 31 日までにお願いたします。

《資料 3》

情報公開請求に関する経過

満洲第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を 京大に求める会

<時系列>

- 2018.7.26 旧満洲第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を求める要請書提出
- 2018.9.18 京都大学、研究活動上の不正行為に関する通報としての取扱い決定
- 2019.2.8 京都大学、本調査を実施しないとの予備調査結果通知
- 2019.2.20 予備調査に対する異議申し立て
- 2019.3.15 京都大学、本調査を実施しないとの異議申立審査結果通知
- 2019.4.5 研究公正調査委員会委員の所属及び氏名ならびに予備調査に係る資料（議事録を含む）

の開示要請

- 2019.6.27 法人文書開示請求（予備調査を実施した研究公正調査委員会委員の所属及び氏名、予備調査に係る資料一式（議事録を含む））
- 2019.7.31 法人文書一部開示決定（予備調査委員会委員の氏名及び所属について不開示）
- 2019.10.4 審査請求
- 2020.3.10 情報公開・個人情報保護審査会、答申
- 2020.3.23 京都大学、審査請求に対する棄却裁決

<概要>

旧満洲第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を求める当会の要請に対し、京都大学は予備調査の結果、本調査を実施しないと通知した。当会としては、予備調査の内容そのものに対しても当然不服があったが、予備調査が適正に実施されたかどうか判断するためにも、調査担当委員が誰なのかを把握する必要があると考えた。そこで、京都大学に対し任意の開示を求めたが、京都大学が応じなかったため、法人文書開示請求を行った。すると、予備調査委員会委員の氏名及び所属が不開示だったため、それを不服として審査請求を行った。ところが、審査会は京都大学の主張を鵜呑みにして不開示が妥当であると判断し、京都大学はその答申を踏まえて請求棄却の裁決をした。

《資料 4》

2020 年 6 月 13 日

声明 裁決書に抗議する

満洲第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を 京大に求める会

令和元年 7 月 31 日付で国立大学法人京都大学（以下「京都大学」という。）が行った法人文書の一部開示決定（以下「原処分」という。）に対し、同年 10 月 4 日付で当会が同決定の取消しを求めて審査請求したところ、京都大学は令和 2 年 3 月 23 日付で情報公開・個人情報保護審査会（以下「審査会」という。）の答申を踏まえて審査請求を棄却する裁決をした。

当会が、原処分のうち取消しを求めたのは、予備調査委員会委員の氏名及び所属を不開示にした部分である。当会は、部局調査委員会委員の氏名及び所属が公表される規定があることから、同様の任務を有し調査の流れも変わらない予備調査委員会についても、当該規定を準用ないし類推適用してその氏名及び所属を開示すべきであると主張した。また、部局調査委員会と同様予備調査委員会についても、調査終了後に委員の氏名及び所属が公表されても外部からの圧力や干渉等の影響を受けることは考えられず、当該業務の適正な遂行に支障を及ぼすおそれはなく、独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（以下「法」という。）に定める不開示事由に該当しないと主張した。

これに対し、京都大学は、「予備調査は、部局調査委員会と異なり、基本的に事実の確認が中心であ

り、予備調査を実施する者には不正の有無に関する判断機能が与えられていないことから、その調査結果に関わった調査委員の氏名等について、公益性の観点からも開示の要請は低い。また、原則として通報を受けた日から概ね30日以内という時間的制約の中で、本調査の要否のための事実確認を速やかに行わなければならないことから、迅速な委員の選任と調査の開始が求められる。」として、部局調査委員会委員の氏名及び所属を公表する規定は準用すべきでないとした。また、「非公表としている委員等調査者の氏名等が公にされた場合、今後、同種の調査において、調査対象者や関係者などの外部からの圧力や干渉等の影響を受けることを危惧するあまり、調査に関わる者が行おうとする検討に影響がおよび、乃至はその選任自体が難航する可能性が生じるなど、研究公正に関する調査業務の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがある。」「予備調査は短期間に調査結果を取りまとめることが求められ、その人選にあたって迅速性が求められることから、選任が難航すると、時間的にも調査に支障を来すこととなる。」として、法に定める不開示事由に該当すると主張した。そして、審査会は、この京都大学の説明

は首肯できるとして、原処分は妥当であると判断した。

しかし、「研究活動上の不正行為が行われた可能性」、通報により示された不正とする「科学的合理的理由と当該通報がなされた研究活動上の不正行為との関連性・論理性」について予備調査が行われるのであり、事実の確認にとどまるものではない。実際、本件予備調査では不正行為の可能性がないと判断し、本調査は不要であると判断しているのである。また、部局調査委員会委員の氏名及び所属については公表が予定されているのに、なぜ予備調査委員会委員の氏名及び所属が公表された場合だけ調査業務の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるのか、具体的な理由は何ら示されていない。さらに、調査期間の長短は、予備調査と本調査の密度がどちらが濃いのかは一概には言えないのであって、予備調査委員会と部局調査委員会とを区別する理由にはならない。

にもかかわらず、審査会は、具体的な理由を何ら示すことなく、京都大学の説明を鵜呑みにして結論を導いており、本来の職責を果たしていないと言わざるを得ない。審査会が、審査請求人の主張に真摯に向き合わなければ、審査請求は形骸化するばかり

この間の連続企画、および日本霊長類学会での発表に関する報告

《連続企画の内容》

京都大学の「本調査を実施しない」との異議申立審査結果に対抗する一環として、京都大学内外の世論喚起を図るために、京都大学構内で「研究者が戦争に協力する時 731 部隊の生体実験をめぐって」を主テーマとする連続企画を行うことにした。

第 1 回は、**松村高夫慶応大学名誉教授による講演「731・細菌戦部隊における研究と学位論文」**を 2019 年 6 月 1 日に開催した。松村教授は、平澤正欣の医学博士論文『イヌノミのペスト媒介能力に就いての実験的研究』（京都大学、1945 年 9 月）を、731 部隊の構造と細菌戦の歴史のなかに位置づけ、同論文の背景とその持つ意味を明らかにした（詳細は、松村高夫: 731 細菌戦部隊における研究と学位論文、15 年戦争と日本の医学医療研究会会誌 20(1), 1-18, 2019.)。

第 2 回は、シンポジウム: 学位論文への疑義 シンポジスト: 西山勝夫(滋賀医科大学名誉教授)「731 部隊の全容」、池内了(名古屋大学名誉教授)「京大の通知と異議申立て」、松宮孝明(立命館大学法科大学院教授)「社会科学的論点から」を、2019 年 10 月 12 日に開催する予定だったが、台風の影響のため、順延となった。

その前に第 3 回として予定していた、**好廣眞一龍谷大学名誉教授（龍谷大学里山学研究センター）による「どんな“さる”だったのだろう？」と題する講演会**を 11 月 9 日に行った。その要旨は以下のと

おりであった。

平澤正欣陸軍軍医少佐の主論文『「イヌノミ」ノ「ペスト」媒介能力ニ就テノ実験的研究』中の「VII 特殊実験」で用いられた動物は“さる”と記されているが、実際はヒトではなかったか？人体実験を行い、人を殺しながら“さる”と偽った疑いがきわめて強い。また論文自体も不備かつ雑で、学位論文にふさわしくないどころか、普通の投稿論文としてさえ掲載拒否されそうなほどお粗末だ。うそを含み、人体実験を行った可能性の高い、しかも内容不備な学位論文について、京都大学は再審査すべきだ。

そして順延されていたシンポジウムを連続企画第 3 回とし、メインテーマを「**731 部隊軍医将校の医学博士論文への疑義**」として 2020 年 2 月 8 日に開催した。

シンポジスト

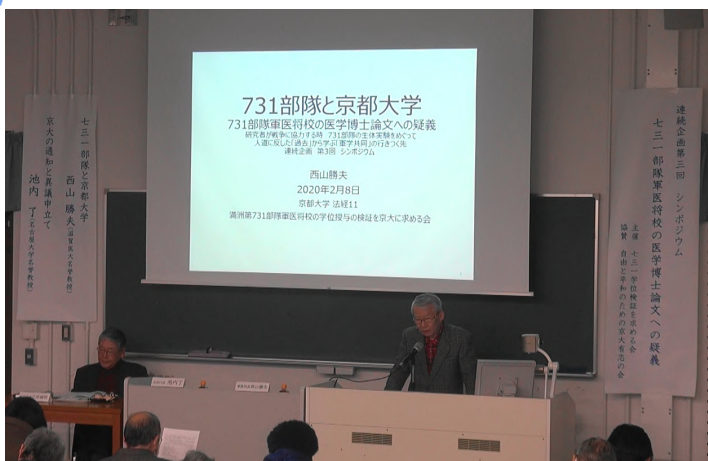
西山 勝夫(滋賀医科大学名誉教授)

「731 部隊と京都大学」

池内了(名古屋大学名誉教授)

「京大の通知と異議申立て」

西山勝夫は、まず、会の取り組みのインパクトを振りかえり、京都大学が 731 部隊への直接関与を公に問われた初めての出来事が全世界的に報道されたことを紹介し、731 部隊とは何だったのかについてあらためて問い、当該学位申請者・平澤正欣と 731 部隊との関連、平澤正欣の学位申請時の履歴を述べた。当該学位授与に関わった人々と 731 部



隊の関連は前段までを話し、以降の企画では、当時の京都大学の様子、敗戦後「731 部隊と京都大学」の自省・自己検証の機会について触れるとの予告がなされた。

池内了は「本調査を行わないとする京大の通知と異議申立て」と題して、この間の一連の動きに沿って話を進める形で、予備調査結果の概要、会の異議申し立ての内容、異議申し立て審査結果、会の見解、法人文書開示請求について報告された。



コロナ禍のもとでの核廃絶課題

— 原爆投下、非人道行為の一般性を新潟から訴える —

核兵器は科学の最大の悪用、科学者が生み出したもの、その意味で直接原子物理学に関わるもの以外でも、科学に携わる者にとって、廃絶するまで、特別の努力が必要ではないか、とも考えます。

軍学共同反対の運動にとっても、背景にある軍産学複合体の最大のものとしての核兵器産業への包囲網を広げることが重要です。研究者レベルだけでなく、圧倒的世界市民の賛同を持って取り組める課題でもあるので。

原爆投下、広島、長崎の惨状が原点にあります。同時に、ここ新潟で考え、計画していることがあります。実は新潟は、広島・長崎に次いで原爆投下の予定都市でした。原爆投下の命令書には Hiroshima、Kokura、Niigata and Nagasaki と長崎より先に新潟が書いてあります。長崎になったのは、いわば偶然、新潟であったかもしれない、あるいは東京、仙台、京都であったかもしれない…。そういう一般性も物語るの、この新潟からも、広島と長崎と同じような思いで、世界に向かって発信してゆくことが求められているのではと考えます。今後、新潟市に原爆・平和資料館を作れ、広島、長崎、北九州市と平和友好協定を結べという運動も考えています。

今、世界的に提起されている平和の波行動は工夫次第で stay home でもできるものであり、折り鶴を使った大運動を考えています。平和の波は 8/6-9 ですが、新潟だけは 8/6-10 と設定。1945 年 8 月 10 日に新潟県知事が新潟市民に対し、原爆投下を

なお当初は松宮孝明を主とする企画を第 4 回として、諸富健（市民共同法律事務所弁護士）「京都大学の開示文書」を主とする企画を第 5 回として開催することを予定していたが、コロナ災禍の来襲で、第 4 回以降の企画は中止された。

《日本霊長類学会における発表》

連続企画の他に、日本霊長類学会（一般会員数 500 名弱）が 2019 年 7 月 12-14 日に熊本で行なわれる機会に、会が提起した疑問について同学会でも発表することになった。

好廣眞一（龍谷大学里山学研究センター）、西山勝夫（滋賀医科大学）、宗川吉汪（生命生物人間研究事務所）の連名で「どんな“さる”だったのだろうかーイヌノミのペスト媒介能力の実験ー」という演題で申し込みをしたところ、受理された。

会からは、池内、西山、広原、福島が学会に参加した。ポスター発表の場で、意見交換ができた日本霊長類学会会員の殆どが、会の提起した疑いに同感された。

（文責 満洲第 731 部隊軍医将校の学位授与の検証を京大に求める会事務局長 西山勝夫）

予想しての全市緊急疎開命令の布告を出し、新潟が空っぽになった日を記念しているからです。

新潟県で 1.4 万羽（1.4 万=世界にある核兵器の数）を超える折り鶴を作り、自宅の玄関やドアノブに飾っていただくようお願いします。（新潟市は 8 千羽目標）

折り鶴は核廃絶運動の象徴です。誰でも知っている佐々木禎子さんの逸話、誰でもできる折り鶴作り、声を発するよりもハードルが低い取り組み方、玄関に、ドアノブにあるいは部屋の中でも飾る、誰でもできる取り組みです。これを写真で集めて広がりを見え化するつもりです。新潟に限らず、この期間、8/6-8/9 の間、日本中、世界中、折り鶴に溢れた街にしませんか。（赤井純治）

1万4千羽の折り鶴を

新潟 平和の波 行動期間

8月6日～10日の間 飾ってください

玄関、ドアノブ 他...以下、例です！ それぞれに工夫を！ 写真を送って下さい (gensuikyou@watch.ocn.ne.jp)へ

8月6日(木) 12:30～ 古町十字路口

新潟平和の波 統一宣伝行動

署名、折り鶴作り/配り、パネル展 他

＜お散歩平和行進＞ 朝からアドバルーンを上げます 萬代橋快

8月6日(木) 15:00～ 萬代橋快 メディアシラフ

ヒバクシャ署名「新潟県」連絡会統一行動

（新友会、原水協、原水禁、県生協連）スタンディング、風船飛ばし

主催 新潟県平和の波行動実行委員会

共催・（協賛）新潟県平和行進実行委員会、ヒバクシャ国際署名「新潟県」連絡会、市民アクション@新潟、新潟YWCA、ピースフェスティバル古町実行委員会、（新潟大教員・学生有志）連絡先 赤井 025-247-3035



三菱電機によるフィリピンへの防空レーダー輸出に抗議しよう！

杉原浩司（武器取引反対ネットワーク[NAJAT]代表）

この3月、三菱電機がフィリピンへの防空レーダー輸出商戦で落札した。固定式と移動式の計4基で金額は100億円規模。2014年4月1日の武器輸出解禁から6年、日本として初の完成品輸出となる。新型コロナの影響で手続きが遅れているが、フィリピン側がサインすれば、7月中にも正式契約が締結されるという。

安倍政権は今までフィリピンに、大型巡視船の供与、海上自衛隊の中古練習機 TC90 や陸自の多用途ヘリ部品の無償譲渡（TC90 は初期は有償貸与）を行い、軍事的な関与を強めてきた。今回の武器輸出はその延長戦上にある。

フィリピンは防空レーダーを、中国軍機の飛行ルートになっているバシー海峡を監視できるルソン島北部に配備すると言われている。日本政府は、同じく飛行ルートである宮古海峡の情報と、フィリピンが得た情報とを共有し合うことを検討している（7月12日、産経）。

つまり今回の輸出は、米国主導の中国包囲網作りの一端を担う、事実上の紛争加担であり、かつて武器輸出三原則が掲げていた「紛争を助長しない」という理念に真っ向から反するものだ。

三菱電機は、日本も大量購入（147機、総経費6.7兆円）しようとしているF35戦闘機などへの搭載が想定される戦闘機用ミサイルの日英共同開発にも参加するなど、国内軍需企業では武器輸出の面で突出している。上司のパワハラによる社員の自死（2019年8月など）や過労死隠ぺい工作の発覚などにより「ブラック企業大賞」を2年連続受賞してきた三菱電機の暴力的な体質が、外にも向けられていることが改めて鮮明になった。

『世界』6月号（岩波書店）の「非常事態下のマニラから」と題したマリア・レッサ（ジャーナリスト）のインタビューによれば、権力を濫用し、適切なコロナ対策を行わないドゥテルテ大統領に、50

万人超が「#OustDuterte（ドゥテルテを追い出せ）」と怒りのツイートをしたという。7月3日には、政権批判や人権擁護活動を弾圧する「反テロ法」の制定が強行された。フィリピンへの武器輸出は人権侵害を容認するシグナルにもなってしまう。

さる3月31日、武器取引反対ネットワーク（NAJAT）の呼びかけで、「三菱電機はフィリピンへの防空レーダー輸出をやめろ！本社前アピール&申し入れ」を行った。参加者は4人と少数精鋭ながらも、東京駅丸の内南口そばの三菱電機が入るビル前で、横断幕やエアコン・電池・炊飯器などの三菱電機製品の不買を呼びかけるプラカードを掲げてアピール。その後、要請書を読み上げ、総務課担当者にしっかりと手渡した。

歴史に汚点を刻む武器輸出であるにもかかわらず、コロナ禍で報道は少なく、事実が市民に知られていない。この問題を広く伝え、製品の不買運動も含めて、三菱電機への抗議を強める必要がある。今回の完成品輸出の「実績」を最初で最後のものにしなければならない。



《お知らせ》☆8月2日原水禁科学者オンライン集会 in 福井 基調講演「科学者の社会的責任と軍事研究」（井原總東北大学名誉教授）他 詳細は http://www.jsa.gr.jp/05event/2020/scienceforum2020_online.pdf
 ☆原水爆禁止 2020 年世界大会（オンライン）国際会議 8月2日、広島デー 8月6日、長崎デー 8月9日 時間は全て 10:00—12:30 特別集会Ⅰ被爆体験の継承と普及、被爆者援護、Ⅱ 沖縄連帯・外国軍事基地撤去、Ⅲ 被爆者・枯葉剤被害者との連帯、Ⅳ 非核・平和の北東アジアと運動の役割 詳細は原水爆禁止 2020 年世界大会で検索

軍学共同反対連絡会

共同代表：池内了・野田隆三郎・香山リカ

軍学共同反対連絡会ホームページ <http://no-military-research.jp/>

軍学共同反対連絡会事務局

▶事務局へのメールは下記へ 件名に「軍学共同反対連絡会」と明記してください。

小寺 (kodera@tachibana-u.ac.jp) 赤井 (ja86311akai@gmail.com)